

# 俳人協会長崎県支部会報

令和二年十二月三日発行

高校生が作った川柳に「甲子園負けもできずにおわる夏」という句がありました。「夏」と季語も入っているの、俳句としても十分に通じる佳作です。何よりも「負けもできずに」のフレーズが切々と胸を打ちます。

長崎県支部は、令和二年度の六月・十二月の総会や総合俳句大会を中止し、紙上大会への変更を余儀なくされました。

六月の会報では、

総合俳句大会は、十一月二十一日（土）。佐世保市にて。外部講師による講演と、大規模な俳句大会を企画しております。

と宣伝したのに、ここまでコロナウイルスが猛威を振るうとは予測しておりませんでした。

講師をお願いした岸原清行先生には大変ご迷惑をおかけしましたが、紙上にて、厳密な選と、あたたかな講評をいただきお礼を申し上げます。また、多くの投句をしてくださった支部会員・一般参加者の方々にも感謝申し上げます。

ところで、来年令和三年度は、九州俳句大会の開催年であります。しかし、担当の大分県支部から、一月の賀詞交換会並びに十月の当日大会、懇親会は中止し、俳句大会は募集句にて行い紙上大会に変更する旨通知がありました。

何よりも会員の皆様の生命の安全と健康を第一としての、苦渋の決断だったようです。

当然ながら、長崎県支部でも

定期総会 ~~中止~~ 俳句大会 六月十三日（日）

総合俳句大会 ~~中止~~ 講演会 十一月十四日（日）の開催を、予定していますが、予断を許さない状況です。

しかし、冬来たりなば春遠からじ、明けない夜はない、という言葉の力を借りて、ワクチンの完成と抗体の確保を願いつつ、来るべき春を待ちたいと思います。

◎年会費未納の方がいらつしやいます。

令和二年度の年会費壹千円を、事務局に納入のこと、宜しくお願い致します。

納入締切 令和2年7月31日でした。早急に。  
納入先 〒852・8065

長崎市横尾一丁目十一番六号

（事務局長）西 史紀 宛

納入方法 郵便小為替 現金 書留 等

令和二年度 総合俳句大会 入賞一覽

大会大賞

海へ出てひかりとなれり草の絮 村田まさ子

【評】草の絮が飛ぶ季節となった。晩秋の光とともに大海原への出航だ。海の広さに途中朽ちてゆく絮もあるだろうし、溺れてしまうものもあるだろう。小さな小さな草の絮の一粒一粒が生命を増やすべく束の間の光なのだ。(藤野律子先生評)

長崎新聞社賞 (岸原清行先生特選一席)

長崎忌遺影の友はいまも二十歳 黒田さだむ

【評】悲惨極まりない原爆によつて、未来を永遠に断たれた友と共に写つた写真を手に、今や卒寿半ばの長寿を授かっている作者。切なる鎮魂の思いが伝わる。(岸原清行先生評)

秀逸賞

道草の子ら緑蔭の秘密基地 太田 紀子

姉が居て兄も居た日や麦こがし 鴨川 富子

遠泳を終へ海神に一礼す 末次 正

佳作賞

爽やかや手に水瓶の百済仏 旗先四十三

日の本の空を広げて田水張る 永田 満徳

鉛筆に平和を託す原爆忌 岩崎 要子

神宿る大樹に絡む藤の空 永福 倫子

大浦の聖鐘ここに露けしや 木下 武久

海へ向く人間魚雷の碑の灼くる 高永 久子

寒月光切り絵のやうな涛頭 坂本三枝子

老いてなほ誇るふるさと蝶千す 栗山よし子

コロナ避け墓で落ち合ふ帰省の子 坂本 幸代

とんぼうやひとりりを拾ふ里のバス 鴨川 富子

黙々と空に田植す千枚田 田中 和枝

漁船みなつながら島の運動会 畑中 榮治

ひぐらしの声も掃き寄せ修道女 高平 保子

月天心軒を寄せ合ふ坂住まひ 上野 ミ子

目に見えぬ敵と戦ふ医師の汗 篠崎 清明

台風一過遊び果てたる子ども部屋 大畑 順子

長崎の空とちこめて竜の玉 高平 保子

洗礼者ヨセフとマリア大根千す 牛飼 瑞栄

澄む水を攪めば水の鳴りにけり 朝長美智子

★令和二年度新会員

池松 伸子様 10月13日付け部名簿による。

内野美世子様 緒方 智子様

円城寺 清様 奥村 紘子様

高橋ひかり様

◆ 単純なことは奥深い。奥深いことを単純な言葉で表現するのが俳句なのでしょう。